
ボクサーの異世界転移

赤海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクサーの異世界転移

【Nコード】

N3218BA

【作者名】

赤海

【あらすじ】

過去にボクシングの大会でいくつもの優勝を飾った経験がある『みつたつばき深唄翼』。大会目前、事故に遭い一生ボクシングが出来なくなってしまった。その日から何事にもやる気が起きなく自暴自棄状態。それから1年後のある日、買い物に出かけようと玄関のドアを開けたら・・・

真っ白な光に包まれた。

ブローグ

俺こと深唄翼^{みづたつはな}は、大勢の人から”天才”と呼ばれていた。理由は、ボクシング。

親父がボクシングジムの会長で俺は小さいころからサンドバックに拳をぶつけていた。

親父の強要で最初は、いやいややっていた。ジムには、周りに知らない大人ばかりで普通に怖かった。

10歳の時、いつものように練習をしていたら親父が「スパarringをしないか？」

と言ってきた。

いい加減、特訓じみた練習に嫌気がさしていたので俺はすぐに承諾した。

スパの相手はジムの中で一番弱い人だった。

俺のスタイルはアウトボクサーで相手はインファイター。

周りの大人は勝てるわけがない、と言ってきたから見返してやろうと思った。

結果、俺は勝った。

さすがに何発かはもらったが、ダウンは取られなかった。

その日から俺は変わった。

戦いの楽しみ、勝利の喜びを知ったから。

強い奴と戦うため、もっと勝利の感覚を味わうために全ての時間を練習にいやした。

中学を中退。時には一日の三食を全部ぬかしたこともあった。

プロテストに15歳の若さで合格。

俺の要望ですぐに試合に出させてもらった。

優勝は出来なかったが、4位になった。

相手が、大人と考えれば最高の結果だと言える。

けど、俺は納得いかなかった。

ねらっているのは、王者の座。

だから今まで以上に練習をつんだ。体がぶっ壊れるぐらい。

そして俺は16歳で優勝の栄冠を勝ち取った。

それから快進撃が始まった。

同時に“天才”の名も広がり始めた。

ブローグ（後書き）

アウトボクサー

ヒット&アウェイを主体に攻める遠距離ボクサースタイル

インファイター

一発が勝負を決める近距離ボクサースタイル

一話

タツ、タツ、タツ、タツ、シュツ、シュシュツ

走りながらシャドウをまぜる。

シュツ、バツ、シュツ、シュシュツ、シュツ、バツ

体は軽い。割と調子が良い方だ。

試合まで一週間。この感じが続けばいいけど。

一週間後に優勝のかかった大事な試合を控えていた。

少し緊張気味で、いつもより早く起きたので朝のロードワークをこなしているところだ。

いつもと同じルートで、いつもと同じメニュー。だが、いつもと違うのは霧が濃くかかっていることだ。

けど、大して気にしなくていいだろう。

と、思って曲がり角をまがると

ブオーン

トラックが目の前に迫ってきた。

* * *

「・・・っ!？」

ガバッ

周りを見渡すと自分の部屋。

全身汗まみれだったが特に変わった様子はない。

「・・・夢、か・・・」

ふと目を向けると、今はもう『使えなく』なった左足が。

「ふう」

ひかれそうになった時、とっさの判断で後ろに飛んだのだがギリギリ間に

あわず左足だけがまきこまれた。

意識が一瞬でとんだ。気が付いたら病院のベットで横になっていた。俺をひいた人が電話したらしい。

横になりながらずっと考えていたのは足のこと。

だが医者から言われたのは、衝撃的な事実だった。

『もうボクシングは・・・』

「こっちは現実・・・」

もう戦えない、もうあの興奮は味わえない、もう拳を振るうことはできない、

もうリングでは踊れない、もう、もう、もうもつもつもつもつもつもつもつもつ

もうもつもつもつもつもつもつもつもつもつもつもつもつもつもつ、

、、、

あの日から約2年。

俺こと深唄翼は18歳になった。学校とかにはいつていない。歩けるけれど、歩く気がしない。

高校生らしいことをやるうとは思わない。簡単な話、すべてにやる気が起きない。

「朝食ねえな・・・」

仕方ないから、ベットに投げっぱにしていたジャージをはおりながら重たい腰をゆっくりとおこす。

財布を確認する。かなり入っている。

家に親はいない。母親は俺が幼いころに他界した。親父は、ボクシングができなくなった俺を見捨ててでていった。

だから家には俺一人。ご飯は自分で買い出し。

考えていると玄関についた。靴を履きドアを開けたら

真っ白な光に包まれた。

こんな感じの展開、二回目だな・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3218ba/>

ボクサーの異世界転移

2012年1月8日17時53分発行